横芝の碑（その九十）

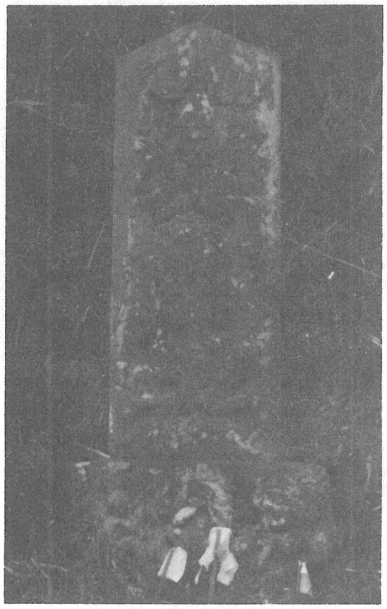
横を向いて村を見護る 取立の庚申様

坂田の池から、城山の裾伝えに小堤方面に向って行くと、やがて信号機のある交差点にさしかかります。直進すると小堤、谷台を経て多古町方面に通じています。そして、左に曲りますと、俗に振子坂と呼んでいる急坂で、右下に見える両総用水第二揚水機場を廻るようにして、大総小学校の前を通り、中台を経て芝山町及び山武町方面に通じています。

この振子坂を上り、丁度揚水機場が眼の下に見える少し上の辺りから、少々細い舗装道路を左に途りますと取立の集落になります。道は下り坂になっていて、左手の城山続きの山裾を押し除けるよう集落に入っています。

その坂道の途中の山腹に、生い繁る笹群に側面をへばり付けるような形で、一体の庚申様が建っています。大ていの庚申様は、道路に向いて建っていますが、この庚申様は、道路に対しては、横向きで、丁度、取立の集落に向った形で建っています。

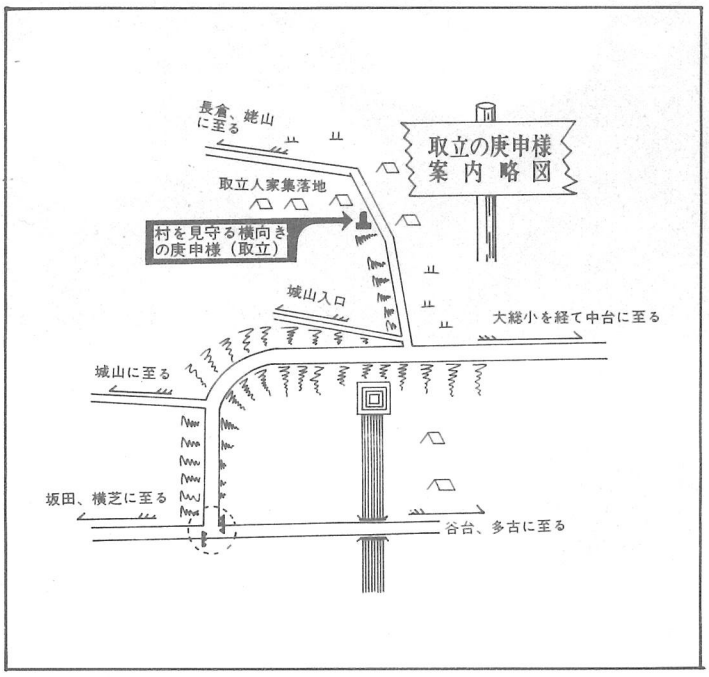
庚申様は、天邪鬼を踏み付けて三猿公を従えた青面金剛像と、天明三癸卯（みずのと、う）正月之建、当村中有志、とだけ刻まれていますが三猿公の見ざる（猿）言わざる（猿）の二匹が、向き合う形に刻まれています。（殆んど三匹とも正面を向いていて、こうした横向き猿の姿は、今までに二回程見かけました。一体は於幾の粟島様の境内の庚申様で、いま一体は、横芝町ではないように思います。）とに角珍しい形です。それに、この庚申様は全く毀損の箇所が見い出せず、建てた時のままの様に保存？されている。ということと、真新しい御幣が供えられているのに強く心をひかれました。



▲取立の集落に向って立つ　庚申様

天明（一七八一～一七八九）の頃この辺りは、小堤、木戸台、寺方、長倉、取立等と、小さな村が別々の領主に支配されていたこと等から、何か他の村との対抗意識が因で、こうした形で村の護りとしての庚申様が祭られているのかも知れない。又は、他にもよくある道路改修等によって建て直されたものかも知れない。それにしてはどうして横を向いているのだろうか、等憶測をしながら、地元の人々にたずねて見ますと「庚申様を移したり、建て直したりした話は誰からも聞いていない。昔の人の中には庚申様の向いている方向を〝庚申向き〟と呼んでいる人もあった位だから、この辺りが取立村であった頃からずうっと建っていたのだと思う。取立では、信者とか信者でないとか言うのではなく、みんなでお詣りをしている。ご利益は家内安全、無病息災、総ての神様と同じように取立地区全部を護ってくれている。と誰もが思っている」、大要こんな話でした。

そうした話をお聞きして、再び庚申様の前に立って見ますと「やはり、この庚申様は取立の皆さんをお護りするために人家の集落に向って建っているのだ。また、これを建立した〝当村中有志〟と刻まれている先祖の方々も『そうして欲しい』と考えて建てられたものである」と、しみじみと感じられて来ました。そして、旗本領がどうの、村毎の対抗意識がどうの、と、浅はかな憶測をした自分を自嘲したくなって来るのでした。

○写真は、取立の集落地方面から撮った庚申様で、向って左側のすぐ下が道路で、後と右側は坂田城山続きの急傾斜になっています。破損された跡もなく、幾何学的にさえ見える背板の線が何か天明の昔をここに、再現させているようです。よく見ると三猿公の両側の二匹が、内側を向いているのが判ると思います。

町文化財審議会委員
小沢春光氏寄稿